

〇〇農場情報

生産者名 〇山△雄

記入例

① 所在地、連絡先

〒111-1111 広島県広島市安佐北区

電話：082-123-4567

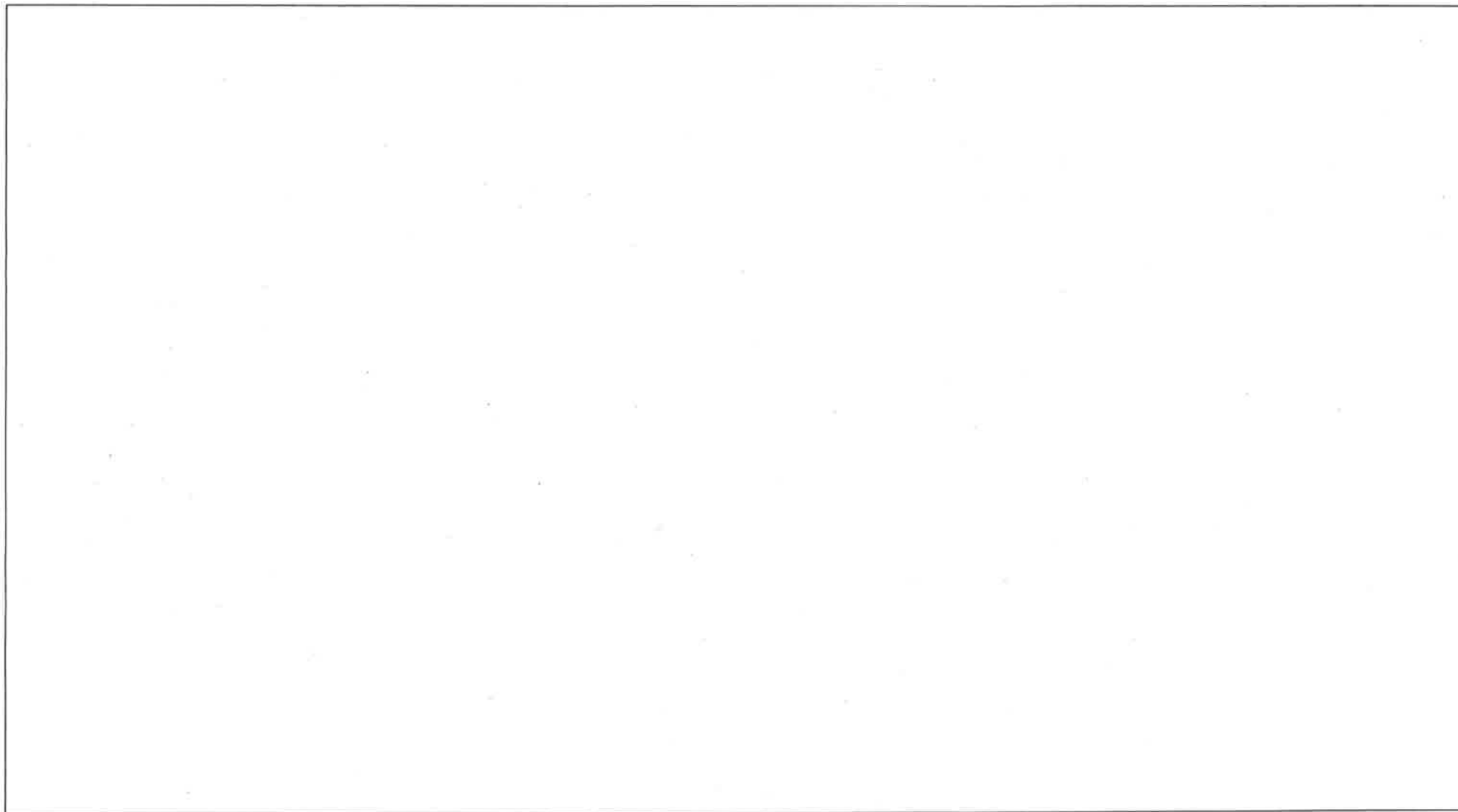
e-メール： @

② ほ場一覧（ハウスも含む）

全ほ場面積 91a

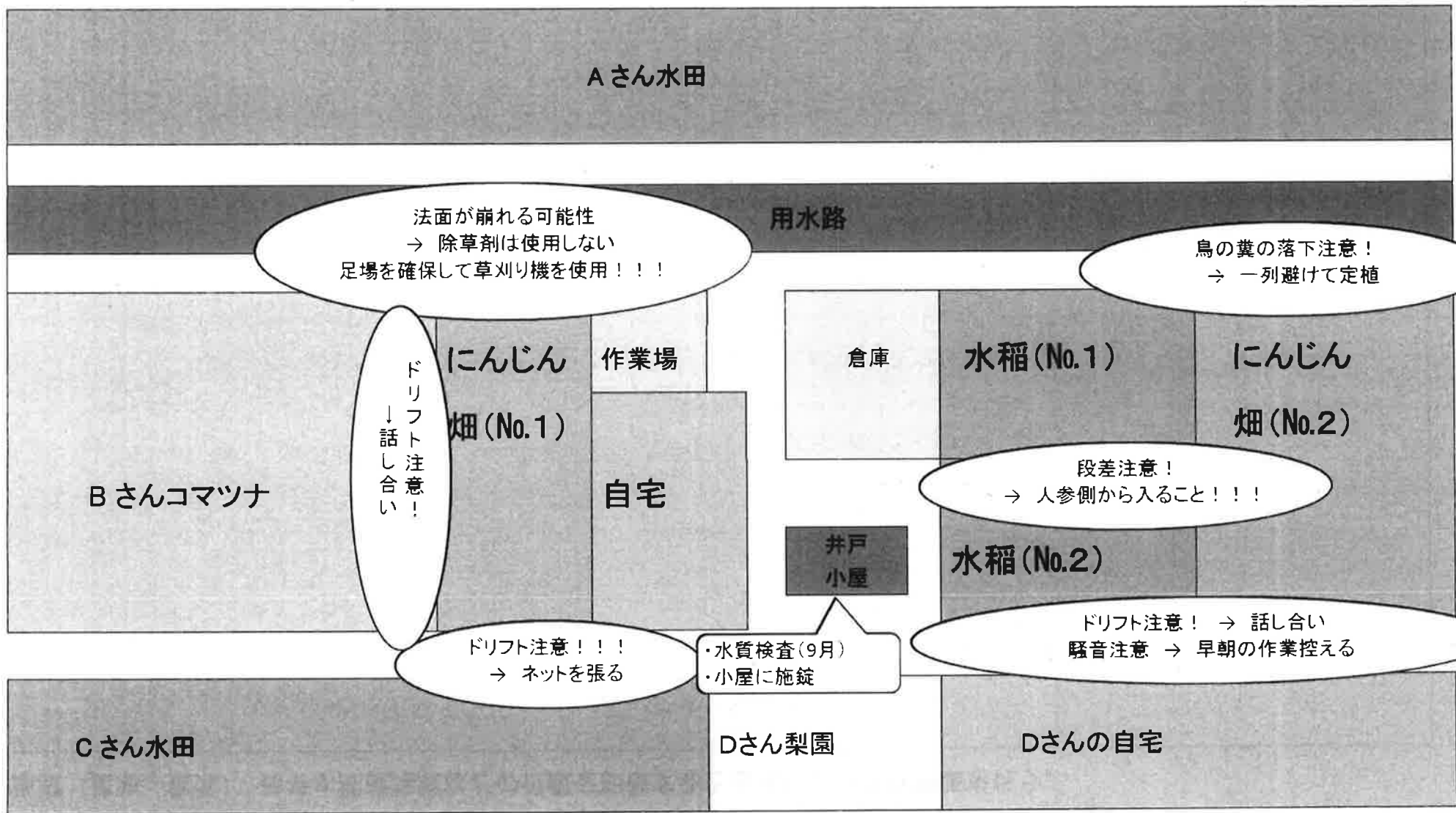
圃場番号	面積/a	圃場地番	所有形態	作物名 ①	次作予定作物 名②	次作 予定 作物 名③	次作 予定 作物 名④	次作 予定 作物 名⑤	次作 予定 作物 名⑥	次作予定作物名⑦
D-1	15	〇×区△町2	所有	トマト	きゅうり					
D-2	3	〇×区△町6-3、6-4	所有	トマト	きゅうり					
D-3	18	〇×区△町28-2、29	借地	ルッコラ	ほうれん草					
D-4	20	〇×区△町18、19	借地	ルッコラ	ほうれん草					
D-5	22	〇×区△町636	所有	小松菜	小松菜	小松菜	小松菜	小松菜	小松菜	小松菜
D-6	13	〇×区△町196	借地	小松菜	小松菜	小松菜	小松菜	小松菜	小松菜	小松菜

【農場地図】 ※ほ場や倉庫，農産物取扱い施設の他に，事務所，トイレ，手洗い場，たい肥保管施設，エネルギー関連施設（重油，電気），給排水関連施設などの位置を記載するとともに、リスク評価を行う。



【農場地図】 ※ほ場や倉庫、農産物取扱い施設の他に、事務所、トイレ、手洗い場、たい肥保管施設、エネルギー関連施設（重油、電気）、給排水関連施設、隣接地との境などの位置を記載するとともに、リスク評価を行う。

記入例



A-2 栽培計画

農場の責任者は作業計画(作業内容及び実施時期)、作付計画(品目ごとの作付予定面積等)を立てている。

作成年月日： 年 月 日

改訂年月日： 年 月 日

平成〇〇年度 生産計画表

今年の生産目標	
---------	--

記号一覧 ○-○:播種期 △-△:定植期 □-□:収穫期 ⇄:貯蔵期間

ほ場番号 または名前	品目・品種 作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

記入例

平成〇〇年度 生産計画表

今年の生産目標	A品率1割アップ
---------	----------

記号一覧 ○-○:播種期 △-△:定植期 □-□:収穫期

ほ場番号 または名前	品目・品種 作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
D-1	えだまめ 福だるま・おつな姫 キャベツ あまだま				○—△	—□	○—△	—□					□
D-2	スイートコーン・ゴー ルドラッシュ90 リーフレタス 晩抽レッドファイヤー	□—□				○—△	—□			○—△			
D-3	ねぎ・ホワイトスター なべちゃん 赤ひげ	□—□	□—□		○—△								□

A-3 商品や農場に関する苦情・異常への対応

商品や農場に関係する苦情・異常に対応した場合、それらが分かる記録を作成している。

作成年月日： 年 月 日

改訂年月日： 年 月 日

苦情・異常への対応報告書

1	事案種類（○で囲む）	商品クレーム ・ 農場の異常
2	報告者氏名	
3	クレームまたは異常の相手 （所属・氏名・連絡先）	
4	商品情報 （品目・購入量・購入日・購入場 所など）	
5	内容	
6	考えられる原因・理由	
7	対策状況	
8	経過観察	

農場責任者または商品管理責任者サイン：

記入例

苦情・異常への対応報告書

1	事案種類 (○で囲む)	商品クレーム ・ 農場の異常
2	報告者氏名	○井○男
3	クレームまたは異常の相手 (所属・氏名・連絡先)	A スーパー (流通販売課・△田△夫・082-123-4567)
4	商品情報 (品目・購入量・購入日・購入場所など)	レタス・2箱・○月○日・○○青果
5	内容	ダンボールを開けたらレタスだけでなく収穫用の包丁が入っており、レタス(出荷ロット**)を出そうとしたパートさんがけがをしてしまった。○月○日にスーパー○○のバイヤー及び負傷したパート(**さん)に謝罪とお見舞を実施。他の商品に影響ないため回収は実施せず。
6	考えられる原因・理由	使った包丁は各自が洗浄して所定の場所に保管することになっているが、作業者のAさんが家庭の事情で急に家に戻らなければならなくなった際に片付けがおろそかになってしまった。所定の場所は特に誰の包丁が戻されていないかが分かるような管理はしていなかった。
7	対策状況	収穫道具の保管場所を作業者ごとにどこに置くかを前もって決めておき、誰が置いていないか一目で分かるようにした。毎日収穫の責任者が作業終了後に保管場所の確認を行うこととした。これらを改定した「調整出荷工程リスク管理表」で関係者に周知徹底した。(7/3)
8	経過観察	新たなルールで2週間経過したが、適切に包丁が戻されており是正処置は効果があったと思われる。(7/20)
農場責任者または商品管理責任者サイン:		

記入例

参考：【みつば】のリスク評価表（調整・出荷工程）

種類：食＝食品安全、労＝労働安全

A. 危害要因の重大性（健康被害の程度×健康被害の発生頻度） → 【1:低】 【2:中】 【3:高】

B. 当農場で危害要因が発生する可能性（過去の発生状況、施設や設備機械の老朽化、周辺環境の状況、原材料の状況、作業手順の定着度合、除去・抑制工程等による） → 【1:低】 【2:中】 【3:高】

C. リスクの大きさ（上記のA×B） → 6点以上及びAが3点の場合は【高】とする。それ以外は原則＝【低】とする。

工程	使用する機械・器具等	危害要因		リスク評価				対策・ルール・手順		
				A. 危害要因の重大性	B. 危害要因が発生する可能性	C. リスクの大きさの判定	根拠	実施内容	危害要因を低減・除去する後工程	実施記録
1. 調整作業（手作業）	調整容器・メモ紙・ボールペン・作業机	食	作業員からの病原微生物の汚染	3	1	高	・水耕業界で死亡あり ・手順は定着	①健康状態の申告（発熱、嘔吐、黄疸等） ②手洗い手順に従った手洗いの実施 ③食品用手袋の装着 ④次亜塩素酸ソーダ希釈水の張ってある消毒槽に長靴を入れて殺菌する	2. 水洗い	入室確認記録
		食	作業員の毛髪の混入	1	3	低	昨年クレームあり	帽子の着用 ローラー掛けして入室		
		食	作業機の上の紙くず・ビニルくずなどの混入	1	3	低	水洗時に発見することがある	作業開始時に拭き取る		
		食	鉛筆の芯が折れて混入	1	1	低		鉛筆は使用禁止		
		食	収穫道具の管理	3	1	高	・けがをした事例あり	収穫道具の保管場所を作業員ごとに決めておき、毎日収穫の責任者が作業終了後に保管場所の確認を行う。		

2. 水洗 い (手 作 業)	水 シンク	食	井戸水の汚染 (大腸菌)	3	2	高	・水耕業界で 死亡事故あ り ・井戸の周辺 に畜産施設 あり	飲用適の井戸水を使用 毎月1回水質検査(10項目):商品管理 の責任者	なし	水質 検査 記録
		食	洗浄水の汚染 (大腸菌)	3	1	高	・水耕業界で 死亡あり ・手順は定着	シンクに水はかけ流しにする。廃水の 再利用はしない。	なし	水質 検査 記録
3. 脱水	脱水機	労	脱水機への巻込 まれ	2	3	高	過去事故あ り	回転中に触らない 回転の停止確認!	-	-
4. 包装	包装機・ フィル ム・作業 台・出荷 ケース	食	フィルムの素材汚 染	1	1	低		PPを使用(業者の SDS にて確認済み)		
		食	作業員からの病 原微生物の汚染	3	3	高	・水耕業界で 死亡あり ・手洗の検証 で注意され た作業員い る	①健康状態の申告(発熱、嘔吐、黄疸 等) ②手洗い手順に従った手洗いの実施 ③食品用手袋の装着 ④次亜塩素酸ソーダ希釈水の張ってあ る消毒槽に長靴を入れて殺菌する	なし	入室 確認 記録
		食	手袋の破損片の 混入	1	2	低	過去クレー ムあり	使い捨ての食品用手袋(青)の装着 作業終了時に破損確認後廃棄		
		食	包装機のベルト の劣化したゴム 片の混入	1	3	高	経年劣化(来 年買い替え 検討)	始業前の点検・補修		包装 日報
		労	包装機のローラ ーへの巻込まれ	2	1	低		カバー装着		

記入例

苦情・異常への対応報告書

1	事案種類 (○で囲む)	商品クレーム ・ 農場の異常
2	報告者氏名	○井○男
3	クレームまたは異常の相手 (所属・氏名・連絡先)	Aスーパー (流通販売課・△田△夫・082-123-4567)
4	商品情報 (品目・購入量・購入日・購入場 所など)	トマト・2箱・○月○日・○○青果
5	内容	Aスーパーの自主検査で当農場のトマト(出荷ロット****)から農薬成分××が基準値の2倍検出されたと連絡あり。社長がAスーパーと協議し在庫の当農場のトマトは全量回収し、今後の出荷は一時停止。消費者及び保健所への対応はAスーパーが実施。同じロットの商品をBスーパーにも出荷していたため、Aスーパーと同様の対応をとった。回収したトマトは産廃業者にて廃棄処分。約1t(○月○日)
6	考えられる原因・理由	実習生が○○水和剤と○○顆粒水和剤を間違えて購入・散布してしまったため。○○顆粒水和剤は5000倍希釈なのに散布指示書に書いてある○○水和剤用の2000倍で希釈してしまった。農薬使用記録は○○水和剤用の2000倍で指示書通りであり、農薬管理責任者の履歴確認でも見抜けなかった。
7	対策状況	・一連の対策状況を審査機関に報告(7/3)、認証の一時停止の判断待ち ・Aスーパー及びBスーパーに対しては、一連の是正対策を報告し、取引の再開を依頼中。
8	経過観察	・再発防止策を開始して2週間経っているが、手順は定着している。(7/20)
農場責任者または商品管理責任者サイン:		

苦情・異常・ルール違反対応手順書

苦情・異常・ルール違反とは、当農場にとって悪影響がある様々な事故や問題ある状態を指す。商品とそれ以外の場合がある。商品の苦情・異常の内、回収に至る案件は商品回収に仕分ける。

1. 苦情・異常・ルール違反の受付・発見・・・農場内の誰でも

外部の場合には連絡先と苦情等の申出者の氏名を控えて置く。

2. 農場責任者への連絡・・・受付者

ただちに連絡する。

3. 担当責任者への対応指示(複数ある場合は正副を指示)・・・農場責任者

商品に影響ある案件＝商品管理責任者、労働安全に影響ある案件＝労働安全責任者、福祉・労務に影響ある案件＝労務責任者、農薬に関係ある案件＝農薬管理責任者、肥料に関係ある案件＝肥料管理責任者、その他＝農場責任者

4. 事故の状況把握・・・担当責任者

1. 商品に影響ある場合

その商品の状態(具体的に) → 農薬事故・異物混入事故等
 その商品の識別 → 品目・ロット・数量
 出荷済みの場合 → 影響ある出荷先・ロット・数量

2. 商品に影響ない場合

具体的な状況を確認のこと

5. 応急処置の決定・・・担当責任者

1. 商品に影響ある場合

①出荷済みの場合・・・自主回収の場合

1) 商品回収・廃棄の判断 **※経営者の最終判断**

・食品安全リスクが高い(病原微生物、農薬・化学物質、硬質異物) → 回収・廃棄
 ・食品安全リスクが低い(上記以外) → 顧客の指示に従う

2) 関係機関へ連絡・・・【緊急事態連絡表】による

・取引先、JA(共販品のみ)、保健所(JA共販品以外で当農場で発見した場合)

②出荷済みの場合・・・保健所の収去検査の場合

1) 保健所の指示に従い対応する(JA共販品はJAの指示に従う)

2) 関係機関へ連絡(JA共販以外の関係する取引先)・・・【緊急事態連絡表】による

③出荷前の場合

1) 廃棄又は選別・特別採用を判断

食品安全リスクが高い(病原微生物、農薬・化学物質、硬質異物) → 廃棄
 食品安全リスクが低い(上記以外) → 選別・特別採用

2) 関係機関へ連絡・・・【緊急事態連絡表】による

・出荷に影響ある場合には取引先、JA(共販品のみ)

2. 商品に影響ない場合

①影響を取り除く方法を検討

場合により業者や専門家にアドバイスをもらう

必要に応じて消防署や警察等の緊急連絡先に連絡
 ※【緊急事態連絡網】による

②①の方法にて対策実施

※労働事故の場合には【緊急事態対応手順】による。

6. 発生原因の追究・・・担当責任者

関係者と一緒に根本原因を追究する。

7. 是正処置・・・担当責任者

関係者と一緒に根本原因を除去する対策を取る。

8. 外部への報告・・・担当責任者 【緊急事態連絡表】による

・商品回収の場合には、取った是正処置を必ず報告(取引先・JA(共販の場合)・保健所(JA共販品以外で当農場で発見した場合)・審査機関)
 ・商品苦情のみ場合には、取った是正処置を必ず報告(取引先・JA(共販の場合))
 ・出荷前の商品異常は特に報告は不要
 ・商品に影響ない場合には事故内容により消防署、警察、審査機関等に必要に応じて報告

9. 経過観察・・・担当責任者

商品回収案件及びリスクの高い案件は、是正処置の効果やその後の経過・終了宣言を記録

10. 記録・・・担当責任者

上記の一連の対応結果を【是正処置報告書】へ担当責任者が記載し、社長まで回す。社長は内容を確認して承認する。

A-4 作業記録

ほ場や農産物取り扱い施設での以下の作業(栽培管理、施肥、防除、収穫、出荷等)を記録している。

作成年月日： 年 月 日

改訂年月日： 年 月 日

平成〇〇年度 作業日報

〇月〇日	記入者印
------	------

作業者	作業時間 (開始時間～終了時間)	時間数	作物・品種名	作業内容 ①～⑧から選ぶ	作業場所 (ほ場番号, 施設)	使用機械



①播種・育苗管理 ②定植 ③農薬散布 ④施肥 ⑤栽培管理 ⑥収穫・運搬 ⑦調製・出荷 ⑧その他

①	播種	作物・品種	種ロット	播種量	使用薬剤名・使用量	備考
①	育苗管理	散水時間	病虫害発生状況			備考

②	定植	作物・品種	定植数	備考

③・④	農薬散布・施肥	※農薬使用履歴，肥料使用履歴に記入する。	備考：
-----	---------	----------------------	-----

⑤	栽培 管理	作業内容	備考

⑥	収穫 運搬	収穫数量（コンテナ数等）	ロット番号	備考

⑦	調製 出荷	出荷数量（コンテナ数等）	出荷先	収穫ロット番号	備考

⑧	その他	商品クレーム	農場の異常	研修・勉強会	訪問者
		・機械の整備や施設，資材の清掃，消毒等を実施した場合も記載する。			

平成〇〇年度 作業日報

記入例

〇月〇日	記入者印
------	------

作業者	作業時間 (開始時間～終了時間)	時間数	作物・品種名	作業内容 ①～⑧から選ぶ	作業場所 (ほ場番号, 施設)	使用機械
山田	10:00～12:30	2.5		①	育苗ハウス	散水機
田中	8:00～12:30	4.5		⑥	5, 6番ほ場	軽トラ
木村	10:00～16:00	5.0		⑧	〇〇公民館	
	: ~ :					
	: ~ :					



①播種・育苗管理 ②定植 ③農薬散布 ④施肥 ⑤栽培管理 ⑥収穫・運搬 ⑦調製・出荷 ⑧その他

①	播種	作物・品種	種ロット	播種量	使用薬剤名・使用量	備考
	育苗管理	散水時間	病虫害発生状況			備考
		1時間	べと病が少し発生			

②	定植	作物・品種	定植数	備考

③・④	農薬散布・施肥	※農薬使用履歴、肥料使用履歴に記入する。	備考：
-----	---------	----------------------	-----

⑤	栽培 管理	作業内容	備考

⑥	収穫 運搬	収穫数量（コンテナ数等）	ロット番号	備考
		30 ケース	0920	

⑦	調製 出荷	出荷数量（コンテナ数等）	出荷先	収穫ロット番号	備考

⑧	その他	商品クレーム	農場の異常	研修・勉強会	訪問者
				農業研修会	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械の整備 ・ 施設、資材の清掃、消毒等を実施した場合も記載する。 			

品目別栽培記録

ほ場名:ハウスA 作物名:コマツナ(なかまち) 面積:2a		ほ場名: 作物名: 面積:		ほ場名: 作物名: 面積:		ほ場名: 作物名: 面積:	
日付	作業(播種,定植,防除,収穫等)	日付	作業(播種,定植,防除,収穫等)	日付	作業(播種,定植,防除,収穫等)	日付	作業(播種,定植,防除,収穫等)
8/10	ほ場準備 たい肥 100kg						
	基肥これだけ 10kg マリンカル 10kg						
	フォース粒剤 800g						
8/11	は種						
8/20	アフーム乳剤 2000倍						
9/8	収穫開始 0.8a						
9/9	収穫完了 1.2a						
	記入例						

B 食品安全

B-7 栽培や収穫、出荷調整作業で使用する水の安全性

栽培で使用する水の種類とその水源と貯水場所を把握するとともに、農作物に危害を与える要因が無い点検し、必要な対策をしている。
また、農産物を最後に洗う水や収穫後に霧吹きに使う水、農産物と接触する機械や容器の洗浄に使用する水などを衛生的に取り扱っている。

作成年月日： 年 月 日

改訂年月日： 年 月 日

生産工程（収穫、調製、選果、貯蔵等）において使用する水の種類とその水源、貯水場所、危害要因等

考えられる危害要因には、病原性微生物（サルモネラ菌など）、重金属類（カドミウムなど）、農薬、有機溶剤（クレゾールなど）があります。

作業工程	水の種類 (水道水・農業用水・井戸水・ 河川水・ため池水・雨水・その他)	水源・貯水場所等	考えられる危害要因	危害要因に対する対策
灌水				
防除				
農産物の 収穫・調製				
収穫物と接す る農具（はさ み等）の洗浄				

記入例

生産工程（収穫，調製，選果，貯蔵等）において使用する水の種類とその水源，貯水場所，危害要因等

考えられる危害要因には、病原性微生物（サルモネラ菌など）、重金属類（カドミウムなど）、農薬、有機溶剤（クレゾールなど）があります。

作業工程	水の種類 (水道水・農業用水・井戸水・ 河川水・ため池水・雨水・その他)	水源・貯水場所等	考えられる危害要因（食品事 故、環境汚染など、好ましく ない結果を引き起こす物質）	危害要因に対する対策
灌水	井戸水	ボーリング 貯水タンク	農薬	水源及び貯水場所の近辺で、農薬の希釈等 を行わない。 貯水タンクに藻などが発生していないか、 月1回程度点検する。
防除	井戸水	ボーリング 貯水タンク		
農産物の 収穫・調製	水道水	上水道	病原性微生物、重金属類	水道局の水質検査結果を3か月に1度確認 し、有害物質等が基準値以下であることを確 認する。
収穫物と接す る農具（はさ み等）の洗浄	水道水	上水道		

B食品安全 C 労働安全

B, C-9 農薬の使用

農薬使用基準を満たした農薬使用計画があり、その計画に従って農薬使用を決定している。

農薬使用にあたり、作業者は適切な合羽やゴーグル・マスク等を着用している。

作成年月日： 年 月 日

改訂年月日： 年 月 日

平成〇〇年度 農薬使用計画 対象作物： _____

日付	薬剤名	散布 ほ場名	対象病害虫	希釈倍率 または 10aあたりの 使用量	散布量	収穫前 日数	使用方法/ 使用機械名	散布者名	責任者 確認印

C 労働安全

C-10 作業者の労働安全

ほ場、作業道、倉庫、出荷調整施設やその敷地等における危険な場所、危険な作業を点検し、事故やけがを防止するための対策を周知・実施している。

作成年月日： 年 月 日

改訂年月日： 年 月 日

農場のルール違反・ヒヤリハット 調査票	
調査責任者	調査日 年 月 日
情報提供者	内容 ルール違反・ヒヤリハット
いつ	年 月 日
誰が	
どこで	
何をしたのか／何があったのか	
問題点の考察	
問題解決の考察	
改善の結果	

記入例

農場のルール違反・ヒヤリハット 調査票			
調査責任者	○野○男	調査日	2010年8月1日
情報提供者	○山△彦	内容	ルール違反・ヒヤリハット
いつ	2010年7月30日午前中		
誰が	○山△彦		
どこで	ハウス内		
何をしたのか／何があったのか 灌水用ポンプのベルトに袖が巻き込まれそうになった。			
問題点の考察 袖のボタンをちゃんとしていなかった。 ベルトがむき出し			
問題解決の考察 袖口はきちんとボタンを留めるか絞れる服にする。 ポンプのベルトにはカバーをつける			
改善の結果 ポンプのベルトにはカバーが付き、安心して作業できるようになった。 服装もきちんとするようになり他の作業での危険性も減ったと思う。			

D 環境保全

D-13 適切な肥料設計

施肥設計は、“ひろしまそだち”栽培指針の標準施肥量や土壌診断の結果等を参考に作成している。

作成年月日： 年 月 日

改訂年月日： 年 月 日

平成〇〇年度 肥料使用計画 対象作物： _____

日付	肥料銘柄 (N:P:K も記載)	施用 ほ場名	施肥量	施肥方法	使用した機械名	散布者名	責任者 確認印

B 食品安全

B-5 ほ場及び倉庫、出荷調整施設における汚染防止と異物混入防止

ほ場及び倉庫、出荷調整施設では、種苗や農産物、包装資材等が汚染物質で汚染されない、または異物が混入しないための対策をしている。

B-6 作業員及び入場者の健康状態の把握と対策

農産物を通して消費者に感染する可能性がある疾病に感染している、またはその疑いのある作業員及び入場者は、事前に農場の責任者へ報告をしている。
農場の責任者は、上記に該当する者に対して、収穫及び出荷調整の作業への立入・従事を禁止または対策をした上で立ち入りを許可している。

B-8 農薬保管庫の管理

農薬を農薬保管庫外に放置していない。

農薬管理の責任者が農薬保管庫の鍵を管理し、施錠されており、誤使用や盗難を防止している。

毒物・劇物及び危険物は、「医薬用外毒物」または「医薬用外劇物」の表示がある専用の保管庫に保管し、他の農薬と明確に区分している。

D 環境保全

D-11 散布液・農薬散布器具の洗浄と洗浄液の処理

調整した散布液は、対象ほ場で使い切るようにしている。

散布後に農薬が残らないよう、散布後は散布機、ホース、ノズル、接合部、タンクを速やかに農産物や水源に危害が無い場所・方法で洗浄している。

D-12 飛散防止(ドリフト対策)

自分のほ場を含む周辺地への農薬のドリフトを防ぐ対策をしている。地下水・河川等の水系への農薬流出を防ぐ対策をしている。

D-14 廃棄物の保管・管理

農場で発生する廃棄物は、農産物や資材類、環境を汚染しないよう保管し、管理している。